

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 7 部門第 3 区分
【発行日】平成 22 年 3 月 18 日 (2010.3.18)

【公表番号】特表 2009-525687 (P2009-525687A)
【公表日】平成 21 年 7 月 9 日 (2009.7.9)
【年通号数】公開・登録公報 2009-027
【出願番号】特願 2008-553311 (P2008-553311)
【国際特許分類】

H 0 4 N 7/32 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 7/137 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 22 年 1 月 27 日 (2010.1.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

1 組の重み付けパラメータを導出することによってピクチャを符号化し、選択基準に基づいて前記 1 組の重み付けパラメータのうちの少なくとも 1 つの重み付けパラメータを選択し、前記選択した少なくとも 1 つの重み付けパラメータを、前記ピクチャを符号化するために使用される参照ピクチャに適用するエンコーダを備える、装置。

【請求項 2】

前記エンコーダが、前記 1 組の重み付けパラメータのうちの前記少なくとも 1 つの重み付けパラメータを、前記 1 組の重み付けパラメータのそれぞれを用い、且つ速度歪み最適化を用いた前記ピクチャの完全符号化に基づいて選択する、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】

前記速度歪み最適化が、ラグランジュの乗数法を用いて実行される、請求項 2 に記載の装置。

【請求項 4】

前記エンコーダが、前記少なくとも 1 つの重み付けパラメータを、歪みメトリックの計算に基づいて選択する、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 5】

前記歪みメトリックが、前記ピクチャと重み付け参照ピクチャの間の絶対ピクチャ差として計算される、請求項 4 に記載の装置。

【請求項 6】

前記歪みメトリックが、前記ピクチャのヒストグラムと重み付け参照ピクチャのヒストグラムの間の差として計算される、請求項 4 に記載の装置。

【請求項 7】

前記エンコーダが、ヒストグラム方法、ピクチャ平均、線形回帰、変位差および反復的方法のうちの少なくとも 1 つを使用して、前記ピクチャの明示的重み付けパラメータを推定する、請求項 4 に記載の装置。

【請求項 8】

前記エンコーダが、歪み特性付けに基づいて前記ピクチャを符号化するための最適な重み付け方法も選択し、前記最適な重み付け方法が、非重み付け予測方法、明示的重み付け予測方法および暗示的重み付け予測方法の中から選択され、それらの方法がそれぞれ前記

重み付けパラメータの組に含まれる、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 9】

前記歪み特性付けが、リスト 0 およびリスト 1 の参照ピクチャの両方に基づいて計算された双方向予測歪みを含む、請求項 8 に記載の装置。

【請求項 10】

前記エンコーダが、少なくとも 1 つの遷移検出方法を使用して前記ピクチャを符号化するための前記最適な重み付け方法を選択する、請求項 8 に記載の装置。

【請求項 11】

1 組の重み付けパラメータを導出することによってピクチャを符号化するステップと、選択基準に基づいて前記 1 組の重み付けパラメータのうちの少なくとも 1 つの重み付けパラメータを選択するステップと、

前記選択した少なくとも 1 つの重み付けパラメータを、前記ピクチャを符号化するために使用される参照ピクチャに適用するステップと、
を含む、ビデオ符号化方法。

【請求項 12】

前記符号化ステップで、前記 1 組の重み付けパラメータのうちの前記少なくとも 1 つの重み付けパラメータを、前記 1 組の重み付けパラメータのそれぞれを用い、且つ速度歪み最適化を用いた前記ピクチャの完全符号化に基づいて選択する、請求項 11 に記載の方法。

【請求項 13】

前記速度歪み最適化が、ラグランジュの乗数法を用いて実行される、請求項 12 に記載の方法。

【請求項 14】

前記符号化ステップで、前記少なくとも 1 つの重み付けパラメータを、歪みメトリックの計算に基づいて選択する、請求項 11 に記載の方法。

【請求項 15】

前記歪みメトリックが、前記ピクチャと重み付け参照ピクチャの間の絶対ピクチャ差として計算される、請求項 14 に記載の方法。

【請求項 16】

前記歪みメトリックが、前記ピクチャのヒストグラムと重み付け参照ピクチャのヒストグラムの間の差として計算される、請求項 14 に記載の方法。

【請求項 17】

前記符号化ステップで、ヒストグラム方法、ピクチャ平均、線形回帰、変位差および反復的方法のうちの少なくとも 1 つを使用して、前記ピクチャの明示的重み付けパラメータを推定する、請求項 14 に記載の方法。

【請求項 18】

前記符号化ステップで、歪み特性付けに基づいて前記ピクチャを符号化するための最適な重み付け方法も選択し、前記最適な重み付け方法が、非重み付け予測方法、明示的重み付け予測方法および暗示的重み付け予測方法の中から選択され、それらの方法がそれぞれ前記重み付けパラメータの組に含まれる、請求項 11 に記載の方法。

【請求項 19】

前記歪み特性付けが、リスト 0 およびリスト 1 の参照ピクチャの両方に基づいて計算された双方向予測歪みを含む、請求項 18 に記載の方法。

【請求項 20】

前記符号化ステップで、少なくとも 1 つの遷移検出方法を使用して前記ピクチャを符号化するための前記最適な重み付け方法を選択する、請求項 18 に記載の方法。